水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、前年度同様、安定的に事業を継続していくために、老朽化が進む配水管や浄水施設設備の更新、水道施設耐震化などに取り組んだ。また、国の交付金を活用した重要施設管路耐震化事業に着手した。

財政面では、使用水量に応じて徴収する従量料金は減少したが、給水戸数の増加により基本料金収入が増加したため、料金収入は微減に留まっている。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区　　分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	増減率(%)
給水区域内人口(人)A	281,144	282,289	△1,145	△0.4
計画給水人口　(人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口　(人)B	272,117	272,987	△870	△0.3
普及率　　(%)B/A	96.8	96.7	0.1	
導送配水管延長(m)	1,420,364	1,420,568	△204	△0.0
職員数　　(人) ※( )内は短時間勤務職員数で外数	72 (5)	74 (5)	△2 (0)	△2.7
総給水量　　(m^3)	26,737,207	27,055,049	△317,842	△1.2
給水能力　　(m^3/日)C	146,000	146,790	△790	△0.5
1日平均給水量(m^3)D	73,253	74,123	△870	△1.2
1日最大給水量(m^3)E	80,759	80,083	676	0.8
施設利用率　　(%)D/C	50.2	50.5	△0.3	
最大稼働率　　(%)E/C	55.3	54.6	0.7	
負荷率　　(%)D/E	90.7	92.6	△1.9	

(2) 給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口及び現在給水人口は、前年度に比べともに減少した。

普及率は、給水区域内人口の減少が現在給水人口の減少を上回ったため、96.8%と前年度より 0.1 ポイント上昇した。

(3) 水道施設の利用状況について

施設利用率は、施設の平均的な稼働状況を示すものであり、1日平均給水量の減少率が給水能力の低下率を上回ったため、前年度より 0.3 ポイント低下した。

最大稼働率は、1日給水量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、給水能力が低下し、1日最大給水量が増加した結果、0.7 ポイント上昇した。

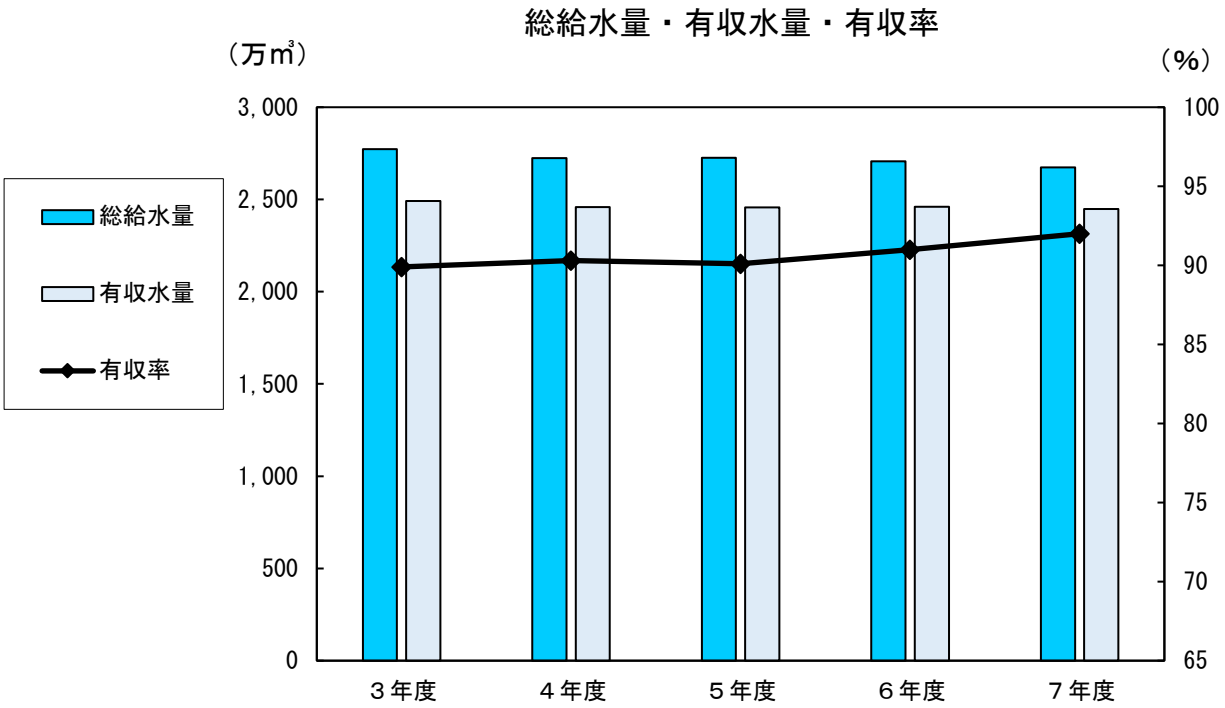
負荷率は、施設の効率を示す指標であり、1日最大給水量に対する1日平均給水量の比である。1日最大給水量は増加したが、1日平均給水量が減少した結果、1.9 ポイント低下した。

(4)　総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度と比較すると 317,842 ㎥減少した。主な要因は、捨て水などの料金徴収をしない無収水量の減少（320,776 ㎥）である。

総給水量に対する有収水量の比率である有収率は、91.6％と前年度より 0.6 ポイント上昇した。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



（単位：㎥・％）

区　　分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
総給水量　　A		27,730,126	27,246,299	27,264,706	27,055,049	26,737,207
有効水量	有収水量　B	24,919,327	24,591,669	24,570,777	24,613,035	24,482,241
	無収水量	1,574,756	1,626,152	1,640,973	1,540,076	1,219,300
無効水量		1,236,043	1,028,478	1,052,956	901,938	1,035,667
有収率　　B/A		89.9	90.3	90.1	91.0	91.6